



神戸の歴史から見た まちの特色

はじめに、神戸の歴史から見た、神戸文化の基礎となるまちの特色について触れておきたいと思います。

神戸の歴史のはじまり

古代の神戸の遺跡



桜ヶ丘4号銅鐸（国宝）
神戸市立博物館

●出土品・遺跡

- ・銅鐸 桜ヶ丘銅鐸(国宝)が有名
- ・五色塚古墳 県下最大の前方後円墳

- 日本最古の温泉～有馬温泉～
奈良時代に僧行基が温泉寺などを建てて温泉を有名にした



五色塚古墳（垂水区）

神戸は、古代からはじまる非常に長い歴史を持っており、市内にはさまざまな遺跡が残されています。

この時代の遺跡として全国的に有名なものとして、弥生時代に大陸から伝わった銅鐸が、東灘区、灘区、垂水区で出土しています。そのうち、灘区桜ヶ丘で出土した、今から約1800年～2000年前の弥生時代中期のものと推定される銅鐸は昭和45年5月に国宝に指定されています。

また、兵庫県下で最大の前方後円墳（全長194メートル、高さは前方部11.5メートル、後円部18メートル）で、造られた当時の様子に復元されている「五色塚古墳」も有名です。4世紀から5世紀にかけて造られたと考えられており、神戸の西部から隣の明石にかけて相当大きな力を持っていた豪族の墓ではないかと言われています。

現在でも名所として名高い有馬温泉は、神代の昔 大己貴命（おおなむちのみこと）と少彦名命（すくなひこなのみこと）の二神がつくられたという伝説があるほどに日本最古の温泉と言われています。聖武（しょうむ）天皇（724～749年在位）の頃には、僧の行基（ぎょうき）がこの地に来て、温泉を復興し、温泉寺などの寺院を建て温泉を有名なものとなりました。

中世におけるまちの形成

中世神戸の特色

●港(大輪田の泊→兵庫の津)
=国際貿易の拠点

●内陸部(太山寺、箱木千年家
など)
=精神文化・農村文化の発展



太山寺本堂 (国宝)

12世紀ごろには、平清盛が大輪田の泊の大規模修築を行い、日宋貿易を発展させました。その後、室町時代においては、日明貿易の拠点となり、中世以来、兵庫の港は内外の文物の窓口となりました。

一方で、

・奈良時代の716年に、藤原鎌足の孫・藤原宇合(ふじわらのうまかい)が創立したと伝えられ、市内で唯一の国宝建造物である本堂をもつ「太山寺」

・室町時代の豪族の住居で日本最古の民家建造物のひとつとして国の重要文化財に指定されている「箱木千年家」

などに象徴されるように、西北神地域においても豊かな精神文化、農村文化が華ひらきました。

本格的な都市の形成

江戸時代の長い鎖国を経て

慶応3(1868)年 兵庫開港
(人口:3万人弱)

明治22(1889)年 神戸市誕生
(人口:13万5千人)



開港当時の神戸港

初代市役所



本格的な都市の形成へ
港を通じて諸外国の文物が神戸から全国へ紹介

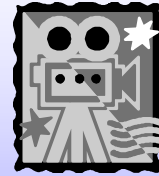
その後、江戸時代の長い鎖国時代を経て、慶応3年(1868年)に神戸港が開港しました。(当時の人口は3万人弱)

明治22年(1889年)に神戸市が誕生し、本格的な都市を形成してきました。市域は現在の中央区と兵庫区の一部で狭いものでしたが、人口は13万5千人となりました。

また、この時期、港を通じて諸外国の文物が神戸から全国に紹介され、また、多くの外国人が神戸で足跡を残しています。

神戸を発祥の地とするもの

- 活動写真(映画)



- ゴルフ



- パーマネント

- 洋服

- ジャズバンド など



神戸を発祥の地とするものとしては、「活動写真」(映画)や六甲山の開祖であるグループがはじめたゴルフのほか、パーマネントや洋服など様々なものが全国に伝えられました。また、わが国最初のジャズバンドは神戸で旗揚げしました。(井田一郎氏率いるラフティング・スター・ジャズバンド)(大正12年)

神戸で活躍した外国人

- 小泉八雲
- W・デ・モラエス
- H・フロイドリーブ
- F・モロゾフ など



小泉八雲旧居跡
(中央区)



モラエス像
(中央区)

明治以降に神戸で活躍した外国人としては、「怪談」の著者として有名な小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)が、英字紙「神戸クロニクル」のコラムニストとして約2年間、神戸に住み、帰化し改名しています。

その他に、

- ・神戸の領事館の副領事時代に宴会の席で見初めた徳島市出身の芸者福本ヨネを妻に、15年間日本風の生活を送りながら「大日本」などの著作によって日本文化を世界に紹介したポルトガルの外交官モラエス
 - ・ドイツ風パンと洋菓子を普及させたフロイドリーブ
 - ・チョコレートを普及したロシア生まれのモロゾフ
- などが有名です。

神戸の都市イメージ

神戸のまちの歴史と諸外国の交流



神戸の都市イメージの基礎

国際性

開放的で自由
な気風、風土

異国情緒

神戸の都市イメージの基礎にある「国際性」、「開放的で自由な気風、風土」、「異国情緒」などは、こうした外国文化の窓口として発展してきた神戸のまちの歴史と、それに伴う諸外国との交流の中から生まれてきました。

また、それは神戸が国内・海外からの多様なものを受け入れてきて、文化の受容に寛容であったことによると考えられます。

神戸のまちの魅力



南側の豊かな海

西北神の
田園風景



六甲の山なみ

(1) 恵まれた自然環境を活かした美しいまちづくり

このようなイメージに支えられた神戸のまちの魅力は、どのようなところにあるのでしょうか。

神戸は、南に広がる豊かな海と背後に六甲の山なみ、そして西北神にひろがる豊かな田園風景など、恵まれた自然環境をいかしながら、美しいまちづくりに努めてまいりました。

神戸のまちの魅力



エキゾチックなまちなみや
美しい港の景観

歴史の重みに支えら
れた有馬温泉など



(2)内外からの訪問者に楽しんでいただける観光的魅力

また、北野、南京町、旧居留地などのエキゾチックなまちなみや、美しい港の景観、さらには歴史の重みに支えられた有馬温泉など、内外から訪れる方々に十分に楽しんでいただける観光資源に富んでいることも神戸の魅力となっています。

以上のようなまちのイメージや魅力を大切にしながら、神戸の文化が育まれてきたといえます。